

昭和30年代の居間の再現

対象学年 小学校中学年	単元名 川越市の人々の生活のうつりかわり
基礎・基本となる内容	電気が家庭に入ってきたころの生活の様子は、どのようなであったかを調べる。
活用できる資料等	居間の再現展示
資料の解説	昭和30年代の居間を再現した。おじいさん、おばあさんが使っている道具と家庭に入り込んできた電化製品が混在している時期を表している。また、現在の核家族に対して二世代の家族を表し、今の自分たちの暮らしとの違いに気づきやすいようにした。
展開例 ○ この家は、何人家族だと考えられますか。 ○ どんなところから、そう考えられますか。 ○ では、それら家族が主に使っていると考えられる道具をよく見て書き出してみましょう。 ・ お母さん(現在のおばあさん)が使っている道具はどれかな。 ・ おじいさん(現在のおじいさんのお父さん)が使っている道具はどれかな。 家族と道具を結び付けていく作業を行う。 ○ お母さんは、どこにいて何をしていますか。子どもたちは？お父さんは？ ○ 今の生活と違うなと思うところは、どんなところですか。ノートにまとめてみましょう。	
評価	○おじいさん、お母さん、子どもたちなどが使っていた道具はどれかを見つけるとともに、当時の様子と現在の我が家とを比べ、暮らしの様子の違っているところを考えることができたか。(思考・判断)